神戸学院大学
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

Vol. 7　2026年2月

CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT
CARD
KOBE GAKUIN UNIVERSITY

地域研究センター通信

「アタシノアカシ」上演報告……❶
2025稲爪神社秋例大祭フィールドワーク報告……❷❸
ウィズフェス2025出展報告……❹
大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ開催予告ほか……❹

開催報告　創作演劇プロジェクト『アタシノアカシ』市民版＆学生版を上演しました

2025 12/21

昨年12月21日、地域研究センターはあかし市民図書館と共催で大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ2025・『わが町の台本を作ろう―明石市民によるアタシノアカシ―』発表会を開催しました。

神戸学院大学人文学部・中山文ゼミでは例年、ゼミ生たちによるリーディング公演を実施しています。今回は学生中心だったこれまでの公演とは違い、学生と明石市民の皆さんとで作り上げた公演です。

本公演に先立ち、10月からあかし市民図書館にて、中山文教授と小原延行先生（劇作家・演出家・本学人文学部非常勤講師）が講師を務める台本執筆ワークショップを実施しました。受講者は全4回のワークショップを通して脚本の作り方を学び、「あかし」をテーマとしたオリジナルの創作脚本を完成させました。今回の公演は、この脚本をリーディング公演の形で披露したものです。

当日のリーディングは、受講者である市民の皆さんと、中山ゼミ4回生が演者を担当しました。会場には大勢の観客に足を運んでいただき、急遽座席を追加しての公演になりました。

「ふしぎな天文科学館」は、参加者が30年前に書いた小説を脚本にアレンジしたものだそうです。星新一のSFのショート・ショートを思わせる味付けで環境問題について考えさせる、印象的な公演でした。

「ふしぎな天文科学館」のワンシーン

「おおきなタコ」は、「おおきなかぶ」のパロディ的な内容で、コミカルな内容と会場を巻き込む演出が、とても楽しい公演になりました。「小山さんのお話し」は、参加者が語ってくださった能楽に情熱を注いだご主人との思い出を、学生が一人語りの脚本として再構成したものです。しみじみとした味わいの公演になりました。「パスタで満腹にならない」は、大学生と新人アルバイトの女性の会話を中心としたもので、コミカルな掛け合いが楽しい公演でした。「大蔵海岸」は、明石に住む老夫婦の会話を中心とする内容でした。何気ない、穏やかな日常の一場面を描いた上で、夫婦のその後について想像させる、余韻の深い公演でした。

「大きなタコ」のワンシーン

「小山さんのお話し」のワンシーン

公演後は、受講者と出演者、講師によるアフタートークを行いました。作品創作の裏話や演出・上演の工夫や苦労について、いろいろ興味深い話を聞くことができました。

アフタートークタイム

様々な世代の地域の方と相談し、協力して公演を作り上げた経験は、学生にとって貴重なものとなったのではないでしょうか。中山教授は本公演を足がかりに、市民劇の上演を計画しているそうです。今後の展開も楽しみです。　（報告：白方佳果）

2025 12/24

今年も中山ゼミ3年生が創作演劇『アタシノアカシ』を公演しました。

学生が制作したポスター

有瀬キャンパスマナビーホールにて大勢の観客を前に、プロ演出家の指導下で一年にわたる学びの成果を発表しました。劇作、演出、音響、照明、美術、制作などはすべて学生が担い、演劇を通して成長した学生たちへ観客は惜しみない拍手を送られました。

←公演詳細

開催報告

2025稲爪神社秋例大祭フィールドワーク報告

人文学部 准教授　三田牧

献灯屋台（三田牧撮影）

昨年10月12日(日)、明石市大蔵谷の稲爪神社秋の大祭に、人文学部の学生たちが参加しました。今回も、人文学部1年生から大学院生まで総勢125名が参加し、献灯屋台と女衆神輿を担がせていただきました。また、写真部からも20名が写真撮影で参加しました。

神輿行列は、稲爪神社の縁起に登場する小千益躬一行を先頭に、ブラスバンド、大蔵本町の神輿、踊り連、女衆神輿(神戸学院大学女子)、献灯屋台(神戸学院大学男子)、神様の乗った本神輿と続きました。いつも静かな西国街道は、神輿行列とそれを観る地域社会の人たちで、大変賑わいました。

前年に続く100人を超える学生参加について神輿青年団長は、「今年もぎょうさん学生さん来てくれてありがとう！」とおっしゃっていました。祭りを担う人手の不足は全国的な課題です。大蔵谷も例外ではなく、神戸学院の学生たちが参加することで賑わいを添えることは大いに歓迎されています。また、学生にとっても、大学に向かうバスでいつも素通りしている一地域社会の祭りに参加させていただくことは、貴重な体験となるはずです。「祭りどころ」播州の空気を肌で感じたことでしょう。学生たちの感想を紹介します。

祭りを継承すること

三田ゼミ　3年　神戸美琴

稲爪神社の秋例大祭を通して、受け継ぐとは何か、その本質に触れられた時間になったと感じています。様々なものがオンラインで完結してしまう現代だけに、人の手で紡がれ、守られてきた稲爪神社の伝統の重みと温かさが、より深く響きました。

さらに、祭りというひとつの行事を支えるために、大蔵谷の地域社会で世代や立場を越えて多くの方々が一生懸命に取り組む練習風景に触れ、どこかうらやましささえ覚えました。

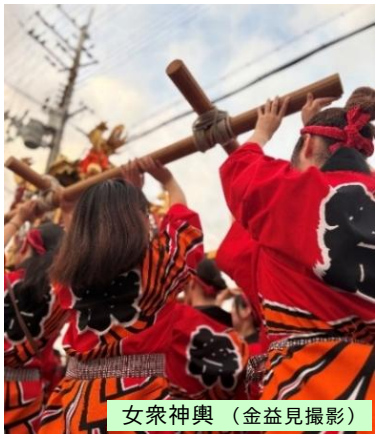
人と人とのつながりが薄れがちなこの時代に、世代や立場を越えた多くの人達が、思いをひとつにして行動する姿に強く心をうたれました。

今回の体験を通して、地域の伝統とは単に形を守り続けるだけでなく、そこに関わる多くの人々の強い想いが重なりながら受け継がれていくものなのであると改めて気付かされました。その積み重ねがあるからこそ、祭りは一年に一度の行事で留まらず、地域の文化として繰り返し繰り返し継承されてきているのだと思います。私自身、この継承の一端に触れられたことを、とても幸せに感じています。

神輿を担いでつながる地域の輪

金ゼミ　3年　濱野夏帆

神戸学院生として初めて地域の行事のお神輿に参加し、改めて地域交流は大切だと実感しました。私は初めてお神輿を担ぐので分からないことが多かったり、儀式の意味もあまり分からなかったけど一緒に担いでくださった地域の人が丁寧に教えてくださりとても嬉しかったしこのようにして伝統は受け継がれていくのだと感じました。また初めて法被も着ることができ中々ない機会だったので気持ちがとても高鳴りました。重いお神輿をみんなで一丸となり担ぎ、声を出しとても楽しく青春だと感じることができました。地域の方々を見ていても老若男女関係なく仲良さそうで、とても良い地域だと思ったしこのような伝統は続けていかないといけないと思いました。貴重で素敵な経験ができてとてもよかったです。ありがとうございました。


女衆神輿　（金益見撮影）

参加したことで気づいた伝統文化の魅力

金ゼミ　4年　井谷明莉

私は稲爪神社の神事に、2回参加させていただきました。1回目はみんなと一緒にお神輿を担ぎ、2回目は裏方として微力ながら神事のお手伝いをさせていただきました。地域の方々が、準備をしながらお祭りについて教えていただきました。お神輿を担ぐ地域の方々はとても力強く、神事への熱意と愛情が伝わって来て感動しました。学生のみなさんも、重い神輿を必死に担ぐ姿がキラキラしていてとても眩しく感じました。

一時期は中止を余儀なくされた神事でしたが、無事に再開でき、大学のみんなで参加できたことに嬉しく思います。

今回、私は神戸学院大学の生徒として、地域の大切な行事に参加させていただき、とても貴重な体験ができました。このような地域と関わる貴重な経験ができるのも、神戸学院大学ならではだと思います。参加させていただきありがとうございました。

神輿を担ぐ方々にみんなでお茶とおにぎりを配りました

伝統の継承と叶う夢

金ゼミ 4年　豊田遥紀

献燈やたいをあげている様子

神戸学院大学人文学部生として2回例大祭に参加し、献燈やたいを担がせてもらって、大変貴重な体験をさせていただき、地域のお祭りに参加することの大切さを実感できました。

また、歌に合わせて屋台を揺らして、前からのかけ声に合わせ、全員の精一杯の声で応えること祭りに参加する人の団結を感じ心が震えました。そして、祭りが終わる頃には一緒に帰りながら話すほどの友情が芽生え、この祭には伝統行事としてではなく地域交流の場としての側面があるのではないかと思いました。

また、幼い頃から氏子として神輿や献燈やたいを担ぐ友人を、羨ましいな、自分も担いでみたいなと夢見ていたので、前回と今回の例大祭で夢が叶いました！

最後になりますが、おにぎりや天ぷら、飲み物を用意してくださった地域の皆さま、本当にありがとうございました。

先代の献灯屋台（2013年秋例大祭参加記録より）

稲爪秋例大祭当事者として学生として

三田ゼミ　3年　石谷優也

稲爪神社の秋祭りに毎年地域の当事者として参加しているが、今年は客観的な視点から地域行事を学ぶことができた。今年は、神輿をコントロールし、担ぎ手の安全確認などを行う「従長」という役割を任された。従長として活動する中で、地元の方と地元以外から参加した方が積極的にコミュニケーションを取っている姿を目にし、地域のつながりや一体感を強く感じた。例年は担ぎ手として参加していたため、神事全体を見る機会がなかったが、今年は客観的な立場から多くの学びを得ることができた。

また、例年は神戸学院大学の学生が本神輿を担ぐことが難しい状況であったが、今年は三田ゼミの数名に参加してもらうことができた。年々参加者が減少している中で、同級生たちに協力してもらえたことを非常に嬉しく思った。神事終了後には、地域の方が学生たちに「お疲れ様」「来年も担ぎに来てね」と声をかけている様子が見られ、地域の温かさを改めて実感した。地域のつながりが強く、交流が盛んな稲爪神社の神輿神事の伝統を、今後も当事者として継承していきたいと考えている。

夜になると献灯屋台の写真がますます映えてきます（矢嶋巌撮影）

【稲爪神社秋例大祭写真】

写真部撮影の写真が、昨年度壊れてしまった献灯屋台の化粧直しに活用された（三田牧撮影）

信号を渡る女衆神輿。この日は暑かったので、うちわの風がきもちよかった。（三田牧撮影）

大蔵天神町から引き返した頃には夜空です。さあ、神社までもう少し（矢嶋巌撮影）

一度半の神事（矢嶋巌撮影）

本神輿を神社の門にくぐらせようとする力と押し戻そうとする力のせめぎ合い（矢嶋巌撮影）

開催報告　「ウェズフェス2025」出展　写真・映像展を開催しました

人文学部 講師　鈴木 遥

2025年12月13日（土）と14日（日）、人文学部の1年次三田ゼミと鈴木ゼミ、および本学写真部が、明石市の市民団体によるイベント「ウィズフェス2025」に参加し、運営ボランティアおよびゼミ活動の成果などの展示を行いました。ブースでは、稲爪神社の秋の大祭を撮った映像の作品と写真を展示しました。

地域研究センターは長年、地域連携活動の一つとして、有瀬キャンパス近くに位置する稲爪神社のお祭りに参加させていただいてきました。両ゼミの学生は、お祭りのお神輿を担ぐ合間をぬって、お祭りの様子を撮影し、後日その映像を編集し、作品をつくりました。

写真部は、稲爪神社のお祭りの写真を撮り、境内で写真展を開催するなどの活動をはじめています。昨年度壊れてしまった献灯屋台の化粧直しに本年度写真部学生が撮った写真が活用されました。

「ウィズフェス2025」当日、学生は、受付や会場の写真撮影、着ぐるみを着ての呼び込みなどの運営をサポートさせていただきました。ブースでは、来場者に映像と写真を見ていただきました。お祭りに参加されている方々はもちろん、多くの地域の方々が本ブースに立ち寄ってくださり、説明に耳を傾けてくださいました。

様々な世代の人々と話をし、共に考え、物事を進めていくことは、これからの地域づくりに欠かせない点でしょう。本イベントへの参加を通じて地域を支える人々と交流させていただいたことは、学生にとっても、教員にとっても大変貴重な経験となりました。

ブースの様子（左から、鈴木ゼミ生、写真部戸田有咲さん、写真部谷崎健太さん、鈴木ゼミ生）

写真部の写真が掲げられた献灯屋台とそれを担ぐ学生

開催予告

2026/2/8　13時～15時
あかし市民図書館にて（予定）

マイノリティと向き合う
-メディア・リテラシーとエンパシーを身につける-

講師　金 益見（人文学部　准教授）

2026/2/28　13時～15時
あかし市民図書館にて（予定）

時間がない！を卒業したい人のためのスケジューリング入門

講師　新居田 久美子（人文学部 講師）

予定・2026年3月　2025年度地域研究センター活動・研究報告書を刊行

2026年3月に下記の内容で報告書を刊行する予定です。センターの活動や研究内容に関して幅広い論考を収録しておりますので、広く手にとっていただければ幸いです。

- ◆地域社会とゼミをつなぐ―稲爪神社秋祭りから
- ◆高齢者戯曲ワークショップからの学び――明石市立図書館との連携を通して
- ◆兵庫県たつの市龍野城下町における産官学連携研究への参画と課題
- ◆干潟保全の協働実践―共に在ることに関する一考察―
- ◆共に学ぶ場をつくる―留学生と大学生の交流活動より―
- ◆梁田蛻巌撰報徳碑銘并序箋釈

活動拠点

地域研究長田センター（旧二葉小学校）ふたば学舎３階

〒653-0042神戸市長田区二葉町7-1-18

地域研究長田センターは、地域と協働した実践的な研究を行う拠点として2010年11月に開設されました。開設時に地震・気象計測システムを設置し、今日まで観測を続けています。データ研究の一部を神戸市委託事業「異常高温対策に関する調査報告（2018年度）」に活用しました。

また、地域研究や社会学などを履修する学生の長田地域におけるフィールドワーク活動も行われています。

明石ハウス

〒673-0871明石市大蔵八幡町5-23

TEL 078-995-5414

明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物（大塩邸、明治30年代後半築）は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。

Access
アクセス

- ■バス：　神姫バス「黒橋」下車、徒歩9分
- ■電車：　JR「明石駅」下車、徒歩15分、
  山陽電車「大蔵谷駅」下車、徒歩5分
- ■車：大蔵海岸西駐車場（有料）をご利用ください

神戸学院大学　地域研究センター通信
〒651-2180神戸市西区伊川谷町有瀬518　TEL：078-974-4232 FAX：078-974-4258
https://card-kobegakuin.jp　E-mail：frb@human.kobegakuin.ac.jp
発刊：2026年2月　発行：神戸学院大学地域研究センター（有瀬キャンパス3号館6階）

神戸学院大学 KOBE GAKUIN UNIVERSITY